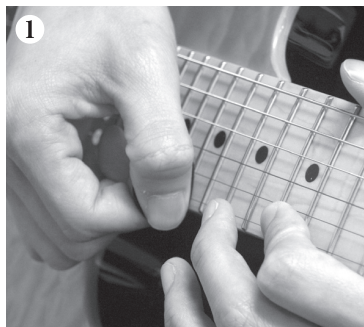


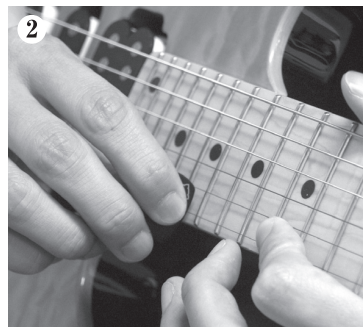
注意点1

ピック・タップの
基本動作をマスターせよ!

1小節目に登場するピック・タップとは、その名のとおり、右手の代わりにピックを使って、超高速でタッピングするテクニックだ。これはジョー・サトリアーニなどが用いていることで有名だが、ピックの側面を弦に対して垂直に立てて、細かくタッピングすると良いだろう。ピックの持ち方は、上からの“順アングル”(写真①)と横からの“逆アングル”(写真②)がある。ちなみに筆者は逆アングルを使っているが、やりやすい方を選んでもらいたい。とにかく速く叩くことがポイントなので、細かい動きができるように頑張ろう。30歳前後のギタリストは、“ハイパーオリピック”で鍛えた力を発揮してもらいたい(笑)。



① 手首を真っ直ぐにし、上から弦を叩く“順アングル”の構え方。ビギナーにはこちらがオススメだ。



② 親指を少し反らせて、手首を曲げて横から弦を叩く“逆アングル”タイプ。かなり速く叩けるが、少し疲れる。

注意点2

ハイトーン・シャウト風
ハーモニクス・プレイ

3小節目に登場する“キョワ〜!!”というロブ・ハルフォードのハイトーン・シャウトのようなサウンドは、ハーモニクスとアームingを組み合わせることで鳴らすことができる。これは、まず思い切りアーム・ダウンを行ない、次にアームを一気に戻すと同時に、左手中指で叩く感じで3弦4フレット付近でハーモニクスを出すというもの(写真③)。ここで最も注意してもらいたいのが、ハーモニクスが出たと同時に3弦以外の弦を即座にミュートすることだ(写真④)。このミュートを怠ると不要弦のノイズが大きく出てしまい、ハーモニクスが聴こえなくなってしまう。この流れを一瞬で行なえるように注意して弾こう。



③ アーム・ダウン後、やや3fよりの4f上を左手中指で触れるようにタッピングし、ハーモニクス音を出す。



④ ハーモニクス音が出たと同時に、親指で4〜6弦を、中指で1&2弦をミュートしよう。瞬時にできるようになること!

注意点3

クリケット奏法で
細かなビブラートを操れ!

4小節目で聴くことができるアーム・ビブラート・プレイが、クリケット奏法だ。この奏法は、アーム・レバーを直接叩くことによって、ブリッジを細かく振動させ、ビブラートを起こす少し力技のテクニック(図1-a)。ナイト・レンジャーのブラッド・ギルスが得意としたプレイだが、アームではなく、ブリッジやギターの本体を叩いても同じ効果が得られる。ただし、そのためにはブリッジをフローティング状態にセットしなければならないので注意しよう(図1-b)。いろいろな場所を叩いてみて、ビブラートの違いを研究してもらいたい。しかし、叩き過ぎてギターを壊さないように注意すること。

図1-a クリケット奏法のやり方



アーム・バーを下向きにして、叩くパターン。



アーム・バーを横向きにして、叩くパターン。



ボディを直接叩くパターン。

図1-b フローティング状態のトレモロ・ユニット

